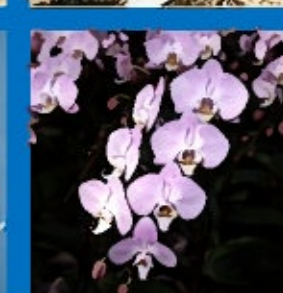
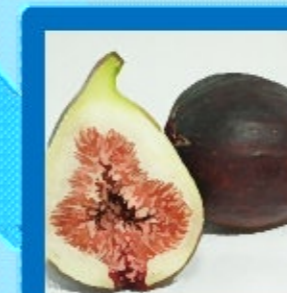


2017

よくわかる



農業



よくわかるあいちの農業 2017

平成29年9月発行
公益財団法人愛知県農業振興基金
〒460-0003
名古屋市中区錦三丁目3番8号
電話 (052) 951-3626
FAX (052) 972-6231
URL <http://www.aichinoshinki.or.jp/>
E-mail noshinki@aichinoshinki.or.jp

監修 愛知県農林水産部農林政策課

目次

1	愛知県農業の概要	1
2	県内各地域の農業	4
3	米・小麦・大豆	6
4	野菜	7
5	果樹・茶	9
6	花き	11
7	畜産	13
8	農業・農村の多面的機能	15
9	愛知の農業用水	16
10	食料自給率	18
11	参考資料（愛知県農業の主要指標 ・主要農産物の生産状況・用語の解説）	20

<表紙の写真の品目名>

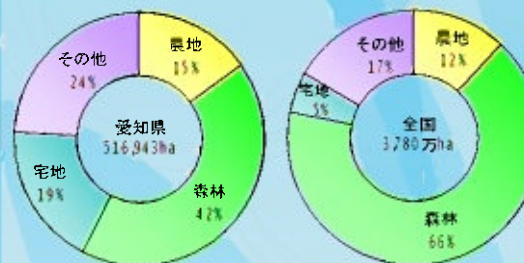


※本文中の構成比は、小数第4位を四捨五入しているため、合計は必ずしも100%にはなりません

1 愛知県農業の概要

● 土地利用の状況

地目別面積の状況

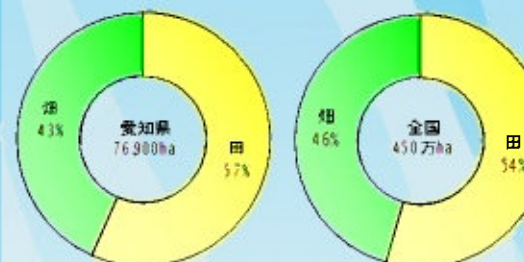


愛知県の面積は 516,943ha で、全国で27番目の広さです。

濃尾平野に代表される平坦な土地が広がり、総面積に占める農地の割合は全国を上回っていますが、748万人（平成27年）という全国第4位の人口を有しているため、宅地の割合が農地の割合を上回っています。

国土交通省調べなどより
（データは平成27年）

耕地面積の状況



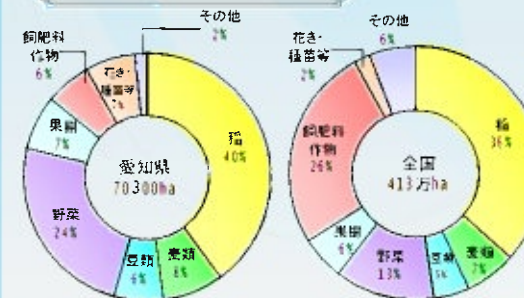
愛知県の耕地面積は 76,900ha で、全国で16番目の広さです。

田畑別では田43,600ha、畑33,300haで、田と畑の割合は全国とほぼ同じです。

耕地面積は、農地転用による宅地化等によって、年々減少しています。

『作物統計』（農林水産省）より
（データは平成27年）

作付(栽培)延べ面積の状況



愛知県の農作物作付(栽培)延べ面積は703,000haで、全国で17番目の広さです。

全国の状況と比較すると、飼肥料作物の割合が低い一方で、野菜や花き・種苗等の占める割合が高いのが特徴となっています。

『作物統計』（農林水産省）より
（データは平成27年）

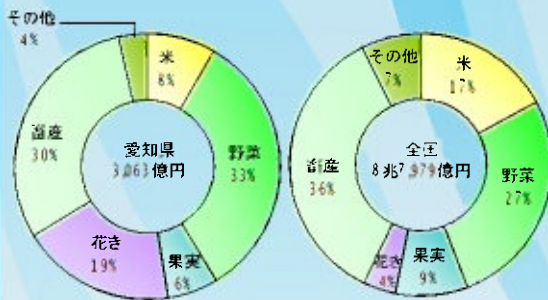
● 農業産出額

農業産出額の上位都道府県

順位	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	農業産出額(億円)
1	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	北海道	11,852
2	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城	茨城	4,549
3	千葉	鹿児島	千葉	千葉	鹿児島	鹿児島	4,435
4	鹿児島	千葉	鹿児島	鹿児島	千葉	千葉	4,405
5	熊本	熊本	熊本	熊本	宮崎	宮崎	3,424
6	愛知	愛知	愛知	宮崎	熊本	熊本	3,348
7	宮崎	宮崎	宮崎	愛知	愛知	青森	3,068
8	青森	青森	栃木	青森	青森	愛知	3,063
9	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	新潟	2,723
10	栃木	栃木	青森	新潟	新潟	群馬	2,550

愛知県は、自動車や機械などの製造業が盛んで、製造品出荷額は昭和2年以降全国第1位です。一方、農業産出額も全国第8位と全国有数の農業県でもあり、農業と工業がバランスよく発展してきました。

農業産出額の作目別構成比



愛知県は、全国の状況と比較すると野菜や花きの産出額の割合が高く、果実を加えた園芸部門は産出額の38%を占め、全国より18ポイント高くなっています。特に、渥美半島の翁の電照栽培に代表されるように、ガラス温室やビニールハウスを利用した施設園芸が盛んです。

作目別産出額の上位都道府県

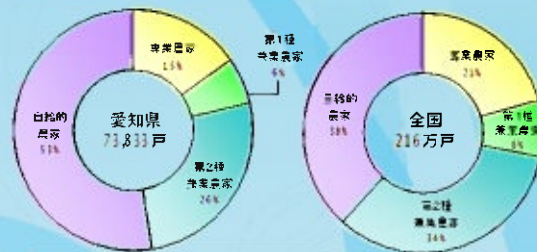
順位	米	麦類	野菜	果実	花き	肉用牛	乳用牛	豚	鶏	鶏	魚類
1	新潟	北海道	北海道	青森	愛知	鹿児島	北海道	鹿児島	鹿児島	茨城	茨城
2	北海道	栃木	茨城	和歌山	千葉	北海道	栃木	宮崎	宮崎	千葉	鹿児島
3	秋田	福岡	和歌山	静岡	静岡	北海道	熊本	群馬	群馬	鹿児島	鹿児島
4	山形	佐賀	群馬	長野	愛知	北海道	群馬	北海道	北海道	北海道	北海道
5	茨城	群馬	群馬	愛知	愛知	北海道	群馬	北海道	北海道	北海道	北海道
6	宮城	埼玉	埼玉	愛知	愛知	北海道	群馬	北海道	北海道	北海道	北海道
7	千葉	愛知	埼玉	静岡	鹿児島	北海道	愛知	北海道	北海道	北海道	北海道
8	福島	熊本	長野	福岡	茨城	北海道	茨城	岡山	岡山	岡山	岡山
9	栃木	滋賀	栃木	熊本	北海道	北海道	茨城	宮城	宮城	宮城	宮城
10	岩手	岡山	福岡	福岡	北海道	北海道	茨城	宮城	宮城	宮城	宮城
愛知県	21位	7位	6位	12位	1位	18位	7位	8位	12位	7位	7位

作目別の農業産出額では、花きが全国第1位、野菜が第6位です。特に花きは、全国の産出額の16%を占め、昭和37年以降、第1位を続けています。その他、麦類、乳用牛、豚、鶏卵も全国上位に位置しています。

(生産農業所行統計)
(農林水産省)より
(データは平成27年)

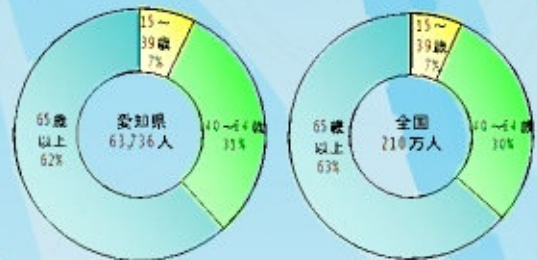
● 農家

専業別農家・自給的農家の割合



愛知県の総農家数は73,833戸で、全国第6位です。農家率(総世帯数に占める総農家戸数の割合)は24.4%で、全国の44.0%に比べて低くなっています。また、愛知県では、全国に比べて農産物をほとんど販売しない自給的農家の割合が多くなっています。

農業就業人口の年齢別割合



愛知県の農業就業人口は、全国と同様に半数以上が65歳以上で占められており、高齢化が進んでいます。

(2015年農林業センサス)
(農林水産省)などより

● 農業の担い手

愛知県農林水産部調べ

新規就農者数(44歳以下)の推移



認定農業者数の推移



愛知県の平成28年度の新規就農者数(44歳以下)は、252人です。なお、最近5か年産の平均では220人となっています。また、農業経営基盤強化促進法に基づき、地域の農家の担い手として市町村から認定された認定農業者は、平成28年度で4,663軽営体となっています。

2 県内各地域の農業

愛知県では、海拔0m地帯から700mの山間地域において、多様な自然条件や名古屋市など大消費地が近いという地理的条件を生かし、それぞれの地域で特色ある農業が営まれています。

県内各地域では、米・小麦・大豆を始め、野菜、果樹、花き、畜産物の生産が盛んに行われています。

右の地図に示した愛知県を代表する品目について、6ページ以降に詳しく紹介します。

名古屋・尾張地域

木曾川によってもたらされた肥沃な土壌を生かし、古くから野菜の栽培が盛んです。

市街化が進んでいますが、都市近郊の産地としての特性を生かし、野菜や果樹、花きで多種多様な品目が生産されています。また、特産のぎんなんが有名です。

海部地域

海部地域は木曾川のデルタ地帯に位置し、豊かな水と肥沃な土壌に恵まれた平坦な地域です。

この地域は、米の出荷が県内で最も早く、8月中旬から始まります。野菜や花きは、都市近郊という地理的条件を生かし、様々な品目が生産されています。

知多地域

昭和36年に愛知用水が通水し、農業が飛躍的に発展しました。現在では、乳用牛、肉用牛や鶏などの畜産が大変盛んです。

また、ふきなどの野菜、みかん・ぶどうなどの果樹、洋らんなどの花き栽培も盛んです。

西三河地域

愛知県のほぼ中央に位置し、気候は温暖で交通の便が良く、古くから各種の産業が発展してきました。

農業は、矢作川を水源とする明治用水などの水利に恵まれ、米や小麦、大豆、てん茶などの栽培が盛んですが、近年では施設園芸も発展し、いちじくや洋らん、カーネーションなどが有名です。

豊田加茂地域

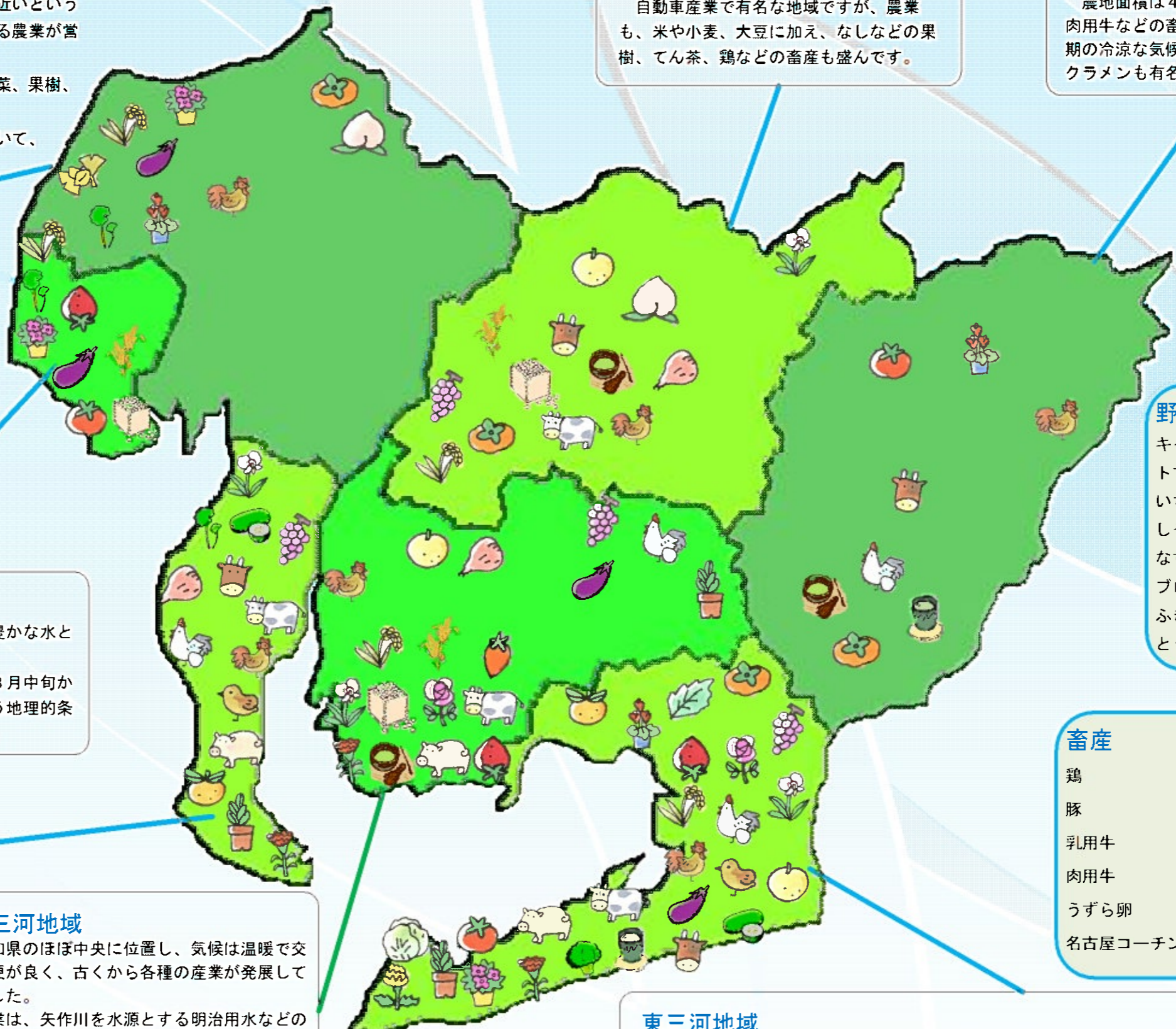
豊田加茂地域は、南西部の平坦地域と北東部の中山間地域からなっています。

自動車産業で有名な地域ですが、農業も、米や小麦、大豆に加え、なしなどの果樹、てん茶、鶏などの畜産も盛んです。

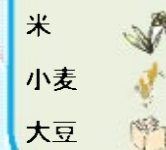
新城設楽地域

新城設楽地域は、面積の88%を森林が占める中山間地域です。

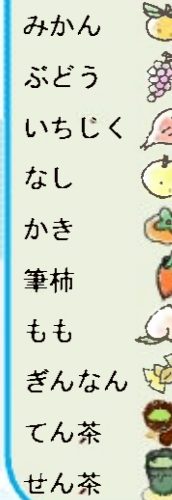
農地面積は4%と少ないですが、鶏や肉用牛などの畜産が盛んです。また、夏の冷涼な気候を生かして生産されるシクラメンも有名です。



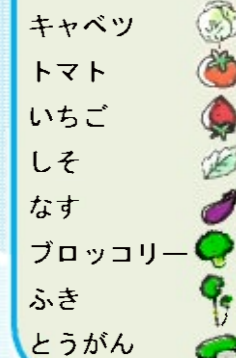
米・小麦・大豆



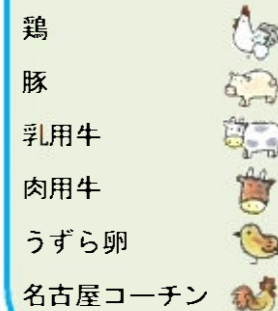
果樹・茶



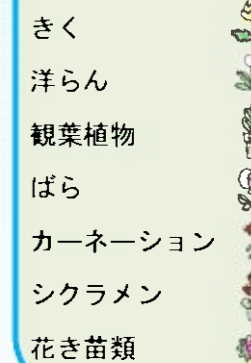
野菜



畜産



花き



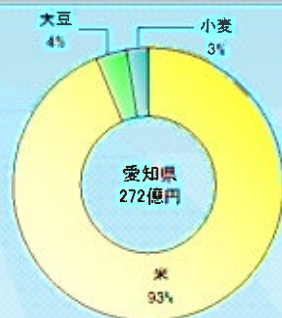
東三河地域

温暖な気候と豊川用水の恩恵に加え、交通網の整備等により、全国屈指の農業地域を形成しています。キャベツ、トマト、しそ、きく、ばら、シクラメン、うずら卵などの全国的にも有名な品目が生産されています。特に、ビニールハウスやガラス温室による野菜や花きの施設栽培が盛んです。

3 米・小麦・大豆

愛知県では、粒が大きく良食味の「あいちのかおり」や、おいしい米の代表である「コシヒカリ」、あっさりとした味わいの「ゆめまつり」、中山間地で主に栽培される「ミネアサヒ」など特徴ある米が栽培されています。米については、供給過剰にならないよう生産調整が行われており、これに対応するため、西三河地域を中心に、米・小麦・大豆を周期的に栽培する輪作が定着しています。

米・小麦・大豆の産出額構成比



米・小麦・大豆の作付面積



米

- ①産出額 254億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 21位(1.7%)
- ③作付面積 28,100ha
- ④主な生産地 豊田市 西尾市 豊橋市 安城市 一宮市 愛西市

米の栽培は、海抜0メートル地帯から700メートルの山間地域まで行われており、それぞれの自然条件に適した品種が栽培されています。また、平坦地では、一戸あたりの栽培面積が広いことから、作期の異なる品種を組み合わせて、直接種もみをまく直播栽培を導入したりして、作業分散や省力化が図られています。



大豆

- ①産出額 9億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 7位(4.3%)
- ③作付面積 4,470ha
- ④主な生産地 西尾市 安城市 岡崎市 豊田市 弥富市 幸田町

大豆は畑の作物ですが、愛知県では大半が水田で作付けされており、西三河地域を中心に栽培されています。愛知県で栽培されている大豆の品種は、ほとんどが豆腐などの加工用に使われる「フクユタカ」です。



小麦

- ①産出額 8億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 3位(2.1%)
- ③作付面積 5,580ha
- ④主な生産地 西尾市 安城市 豊田市 岡崎市 弥富市 刈谷市

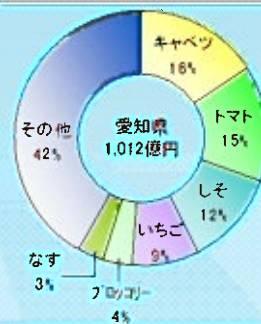
愛知県では、小麦の栽培を推進しており、現在では、全国第3位の産出額となっています。愛知県育成の日本種用の「きめあかり」を中心に栽培され、うどんなどに使われています。また、パン・中華種用の「ゆめあかり」も育成され、生産が進められています。



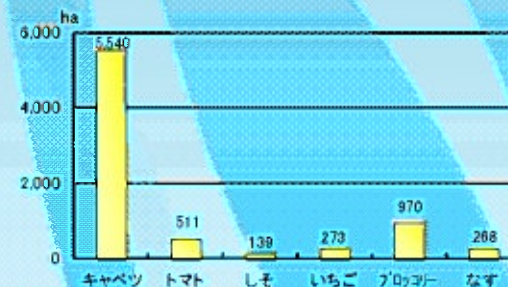
4 野菜

愛知県は、温暖な気候と大消費地に近いという立地条件に恵まれて、秋冬野菜を中心とした、全国屈指の野菜産地となっています。特に、しそ、ふき、とうかんぼ、全国一の産出額を誇り、キャベツやトマト、いちごなども全国有数の産地となっています。また、愛知県では、多くの野菜がガラス温室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

野菜の品目別産出額構成比



野菜の品目別作付面積



キャベツ

- ①産出額 158億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 2位(13.9%)
- ③作付面積 5,540ha
- ④主な生産地 田原市 豊橋市

愛知県のキャベツ生産の歴史は、全国で最も古く、明治中期に名古屋市近郊で始まり、その後、豊川用水の通水を契機として、東三河地域でも生産されるようになり、現在では、この地域は全国有数の大産地となっています。



トマト(加工・ミニトマト含む)

- ①産出額 150億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 3位(6.2%)
- ③作付面積 511ha
- ④主な生産地 田原市 豊橋市 豊川市 弥富市

愛知県のトマト生産は、後にカゴメを創設した蟹江一郎氏が明治32年に栽培を開始したと言われています。大玉、ミディ、ミニ、カラー等様々な種類が栽培されています。中でも、先端がとがった形をした「ファーストトマト」は、愛知県の特産品として強い人気があります。また、奥三河では、授粉が不要な「あいさか2号(商品名:ルネッサンス)」が栽培されています。



しそ(大葉・赤しそ)

- ①産出額 123億円
- ②産出額の全国順位(シェア) 1位(69.9%)
- ③作付面積 139ha
- ④主な生産地 豊橋市 豊川市 碧南市

しそは、中国原産の一年草で、栽培品種は、青しそ・赤しそに大別されます。青しそは大葉ともいわれます。愛知県では、青しその生産が盛んで、豊橋市などでは50年以上前から栽培されており、愛知県は、全国一の産地となっています。



いちご

- ①産出額 8.7億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 8位 (5.1%)
- ③作付面積 273ha
- ④主な生産地 西尾市 愛西市 豊川市 豊橋市 岡崎市 蒲郡市

愛知県のいちご栽培は、明治時代に始まりました。今では、ビニールハウスなどを利用して、冬から春にかけて、生産・出荷されています。県内では、平成17年に県が育成した「ゆめのか」をはじめ、「章姫(あきひめ)」、「紅ほっぺ」、「とちおとめ」の4品種が主に栽培されています。



ブロッコリー

- ①産出額 3.7億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 4位 (8.2%)
- ③作付面積 970ha
- ④主な生産地 田原市 豊橋市

愛知県のブロッコリー栽培は、東三河地域で盛んに行われ、全国有数の産地となっています。また、ブロッコリーはカリフラワー同様、キャベツの変種で、小さなつぼみの固まりと茎を食べるため、花野菜とも呼ばれています。



なす

- ①産出額 3.4億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 7位 (3.8%)
- ③作付面積 268ha
- ④主な生産地 豊橋市 岡崎市 一宮市 幸田町 弥富市 西尾市 稲沢市

新鮮ななすは、濃い黒紫色で、表面にしわがなく光沢があり、へたの切り口が新しく、鋭いトゲを持っています。「千両なす」という品種が多く作られています。平成20年に愛知県が育成した「とけなし輝菜」は授粉が不要かつへたにトゲがない品種で、作付が拡大しつつあります。



ふき

- ①産出額 1.1億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (35.5%)
- ③作付面積 74ha
- ④主な生産地 東海市 知多市 南知多町 稲沢市 愛西市

ふきは、日本原産の野菜で、野生種を含めて200種以上あるといわれています。知多半島を中心に明治時代の中頃から「愛知早生ふき」が栽培されており、全国に広まっていきました。最近では、愛知県と経済連が共同育成した「愛経2号」もつくられており、愛知県は、全国一の産地となっています。



とうがん

- ①産出額 5億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (62.5%)
- ③作付面積 26ha
- ④主な生産地 豊橋市 東海市 安城市

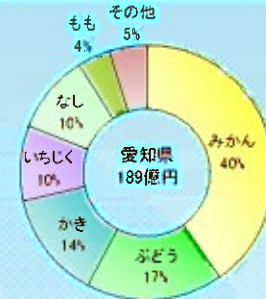
愛知県では昭和45年に沖縄から導入された「琉球とうがん」の栽培が増え、現在では全国一の産地となっています。一方、県内には古くから「早生とうがん」という在来品種があり、平成14年度には「あいちの伝統野菜」にも選定されています。



5 果樹・茶

愛知県の果樹の産出額は、全国第12位です。品目別では、みかんの割合が40%と最も多くなっていますが、他にも、ぶどう、かき、いちじく、なしなど様々な果実が栽培されています。

果樹の品目別産出額構成比



果樹の品目別結果樹面積



みかん

- ①産出額 7.6億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 7位 (5.0%)
- ③結果樹面積 1,290ha
- ④主な生産地 蒲郡市 東海市 南知多町 知多市 美浜町

愛知県は、初夏から秋にかけて出まわる、ハウスみかんの全国有数の産地です。この栽培方法は、昭和44年に、全国に先駆けて愛知県で始まったもので、蒲郡市の「蒲郡温室みかん」、美浜町を中心とした「みはまっこ」などが有名です。また、美浜町では、甘酸っぱい味の特徴の「さわみっこ」も出荷されています。



ぶどう

- ①産出額 3.3億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 7位 (2.9%)
- ③結果樹面積 467ha
- ④主な生産地 大府市 東蒲町 東海市 岡崎市 豊橋市

全国的に最も栽培面積の多い「巨峰」の種なし栽培技術を初めて確立したのは愛知県です。愛知県には各地にぶどうの直売所や観光ぶどう狩り園があり、シーズンになると多くのお客さんが賑わいます。



かき

- ①産出額 2.6億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 5位 (6.5%)
- ③結果樹面積 1,190ha
- ④主な生産地 豊橋市 幸田町 新城市 大山市

かきは、古くから栽培されており、また、ヨーロッパを始め、多くの国で「KAKI」の呼び名で親しまれています。愛知県の主産地は豊橋市で、「次郎柿」という品種が中心となっており、深くコクのある甘みとしっかりした歯ごたえが特徴です。また、幸田町では、形が釜の穂に似ている「釜柿」が特産となっています。



【生産費算所得統計】及び「作物統計調査」(農林水産省)などより
(データは平成27年。ただし、しそ及びとうがんの作付面積は平成26年。主な生産地は「愛知県野菜品目別市町村別実務統計(26年)」より。)

いちじく

- ①産出額 1.6億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (25.4%)
- ③栽培面積 130ha
- ④主な生産地
安城市 碧南市 常滑市
豊田市 西尾市

いちじくは、愛知県では明治時代から本格的に栽培され始め、現在では安城市や碧南市を始め県内各地で栽培され、全国一の産地となっています。昭和60年から低温流通システムが導入され、新鮮でよく熟したおいしいいちじくが食卓へ届けられています。



なし

- ①産出額 1.9億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 12位 (2.4%)
- ③結果樹面積 371ha
- ④主な生産地
安城市 豊田市 豊橋市
西尾市 豊川市 幸田町

愛知県のなしの栽培は明治初期に始まったとされています。現在、安城市、豊田市、豊橋市などで栽培され、愛知が誇る果物の一つとなっています。「幸水」を始め、「豊水」、「新高」、ジャンボ梨の愛称で親しまれる「愛宕(あたご)」、愛知県が育成した「秋月」などの品種が栽培されています。



もも

- ①産出額 8億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 9位 (1.5%)
- ③結果樹面積 —
- ④主な生産地
小牧市 豊田市 春日井市

ももは、中国原産といわれていますが、現在栽培されているももは、明治時代に欧米や中国から入ったものが品種改良されたものです。「白桃」などなじみがある品種は、大正時代から広く栽培され始めました。愛知県では、果肉が柔らかく、みずみずしい「白鳳」が最も多く栽培されており、7月中旬から下旬にかけて出荷します。



ぎんなん

- ①生産量 1.95t
- ②生産量の全国順位 (シェア) 2位 (20.2%)
- ③栽培面積 63ha
- ④主な生産地
稲沢市

ぎんなんは、愛知県の特産品の一つです。稲沢市祖父江町一帯で、古くから、強風を防いだり、火災時の延焼を防ぐ目的で植えられていました。町内には樹齢100年を超える大木があちこちにあり、晩秋ともなると黄金色に染まった美しい風景が広がります。



茶

- ①産出額 2.1億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 7位 (2.3%)
- ③栽培面積 555ha
- ④主な生産地
西尾市 新城市 豊田市
豊橋市 田原市

愛知県の茶の栽培は、明治時代から本格的に始まりました。西尾市、豊田市では主に「てん茶(抹茶の原料)」が生産され、新城市、豊橋市、田原市では主に「せん茶(一般に急須で入れて飲むお茶)」が生産されています。愛知県は、京都府に次いで全国第2位の「てん茶」の産地となっています。



6 花き

愛知県の花きの産出額は576億円で、昭和37年以降全国一を誇っています。品目別の産出額でも、きく、洋らん、観葉植物、ばらが全国一です。また、愛知県では、多くの花きがガラス温室やビニールハウスなどの施設で栽培されています。

花きの品目別産出額構成比



花きの品目別作付(収穫)面積



きく (切花)

- ①産出額 2.35億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (34.0%)
- ③収穫面積 1,339ha
- ④主な生産地
田原市 豊川市

きくは、大抵の出ている時間が短く、なると花を咲かせる性質があります。この性質を利用して、人工的に昼の時間を長くすることで、本来の開花時期を遅らせる電照栽培は、愛知県で開発された技術であり、全国に広く普及しています。愛知県のきくの産出額は、全国の約3分の1を占め、全国一となっています。



洋らん (鉢物)

- ①産出額 6.3億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (18.9%)
- ③収穫面積 48ha
- ④主な生産地
豊橋市 西尾市 東海市
碧南市 南知多町 東浦町
豊田市

愛知県で洋らんの栽培が本格化したのは、昭和40年代以降で、現在では、全国の産出額の約5分の1を占める全国一の産地となっています。県内では、シンビジウム、ファレノプシス(コチョウラン)、デンドロビウムなど多くの種類が栽培されています。



観葉植物 (鉢物)

- ①産出額 3.9億円
- ②産出額の全国順位 (シェア) 1位 (34.5%)
- ③収穫面積 100ha
- ④主な生産地
田原市 西尾市 岡崎市
豊橋市 南知多町 美浜町
安城市

愛知県では、昭和30年代に本格的な栽培が始まり、現在では、全国の産出額の3割を占める全国一の産地となっています。以前は業務用の需要がほとんどで、貸し鉢(レンタル)として使われていました。現在は、家庭用の需要が伸びており、小さい鉢物やミニ観葉植物も増えています。



【生産農業所得統計】及び【作物統計調査】(農林水産省)などより
(データは平成27年、ただし、いちじくの栽培面積、ぎんなんの生産量、栽培面積は、平成26年、主な生産地は県の調査(26年産)より、ただし、茶の主な生産地は愛知県茶業連合会会員組織のある市。)

ばら（切花）

- ①産出額 2.6億円
- ②産出額の全国順位（シェア） 1位（13.7%）
- ③収穫面積 50ha
- ④主な生産地 豊川市 田原市 西尾市 豊橋市

愛知県のばら生産は、東三河地域を中心に全国一の産出額を誇っています。近年、多くの品種が育成され、様々な花色や、「スプレー」と呼ばれる一つの枝にたくさんの花を咲かせるものなどが出回っています。贈り物やブライダル用として人気のあるバラですが、特徴のある品種によりいろいろな場面で使われるようになりました。



花き苗類

- ①産出額 1.6億円
- ②産出額の全国順位（シェア） 5位（5.3%）
- ③収穫面積 131ha
- ④主な生産地 一宮市 春日井市 稲沢市 愛西市 田原市 碧南市

花種用としてカーテニングブームを背景に生産が増え、愛知県は全国有数の産出額を誇っています。一年を通じて、非常に多くの種類が出回ります。店頭で選ぶ際は、葉の付き方が密で、株元がしっかりしているものを選びましょう。



カーネーション（切花）

- ①産出額 1.9億円
- ②産出額の全国順位（シェア） 2位（15.1%）
- ③収穫面積 50ha
- ④主な生産地 西尾市 田原市 碧南市

5月第2日曜日の母の日に向けて、カーネーションの生産はピークを迎えます。赤色や白色の輪咲きを始め、最近では様々な花色や「スプレー」と呼ばれる咲き方のカーネーションが花屋に並びます。愛知県は長野県に次ぐカーネーションの産地となっています。



シクラメン（鉢物）

- ①産出額 8億円
- ②産出額の全国順位（シェア） 2位（9.2%）
- ③収穫面積 18ha
- ④主な生産地 豊川市 田原市 設楽町 稲沢市 豊橋市

シクラメンは、冬の室内を華やかに飾る代表的な花で、愛知県は長野県に次ぐ全国第2位の産出額を誇っています。日によく当て、傷んだ花は早めに摘み取るなど、こまめに手をかけてやれば、桜の咲く頃まで花を楽しむことができます。



「生産農家所得統計」及び「作物統計調査」（農林水産省）などより（データは平成27年、主な生産地は「花き生産実情調査（27年度）」より。）

★ 花の王国あいち

愛知県は、花き産出額において昭和37年以降54年連続で日本一を誇る「花の王国あいち」であり、平成27年の花き産出額は576億円と、第2位の千葉県との約3倍となっています。

愛知県では、県民の皆さんに「花の王国あいち」であることを知っていただくため、平成27年度にシンボルマークを作成し、花きの生産・流通・小売等の関係団体と連携しながらPR活動を進めています。

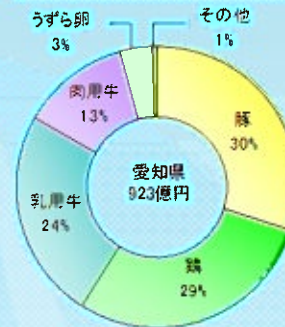
順位	都道府県名	産出額	全国シェア
1	愛知県	576億円	16.3%
2	千葉県	186億円	5.3%
3	福岡県	184億円	5.2%
4	静岡県	177億円	4.4%
5	埼玉県	174億円	4.9%



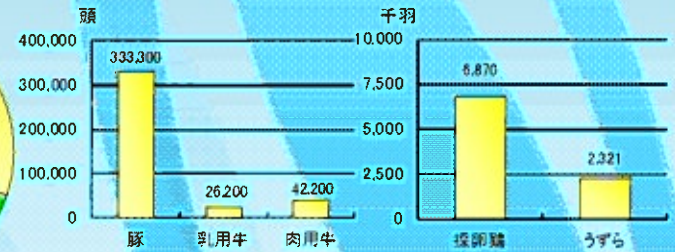
7 畜産

愛知県の畜産の産出額は923億円で、農業全体の30%を占め、全国でも第10位に位置しています。豚、鶏、乳用牛及び肉用牛の他、うずら卵は特産品として全国一の生産を誇っています。地域別には、東三河及び知多が主要な産地です。

畜産の品目別産出額構成比



畜産の品目別飼養頭羽数



豚

- ①産出額 2.76億円
- ②産出額の全国順位（シェア） 8位（4.4%）
- ③飼養頭数 333,300頭
- ④主な生産地 田原市 豊橋市 西尾市 美浜町 豊川市

豚の年間の出荷頭数は約55万頭で、豚肉に換算すると約3万トンとなり、愛知県の総人口の約3分の1である、280万人分の年間消費量をまかなっています。愛知県では、おいしくて品質の良い豚肉を消費者に提供するため、畜産総合センターなどで、優秀な種豚を生産者に供給していますが、全国で唯一、3品種の系統豚を独自に開発し、生産者に供給しています。



鶏

- ①産出額 2.68億円（うち鶏卵 2.28億円）
- ②産出額の全国順位（シェア） 1.2位（2.8%）（鶏卵 7位（4.1%））
- ③飼養羽数（採卵鶏）6,870千羽
- ④主な生産地（鶏卵） 新城市 田原市 豊橋市 半田市 岡崎市

鶏は、明治・大正時代の平飼い養鶏から始まり、現在では、開放式のケージ養鶏の他、外部との接触を遮断し、温度や換気などの飼養環境をコントロールする衛生面で優れたウインドウレス鶏舎も導入されています。また、鶏卵の販売方法は、スーパーの池、養鶏農家が直接、販売所や自動販売機を設置するなど工夫されています。



乳用牛

- ①産出額 22.4億円
(うち生乳 19.9億円)
- ②産出額の全国順位 (シェア)
7位 (2.6%)
(生乳 7位(2.7%)
- ③飼養頭数 26,200頭
- ④主な生産地
田原市 豊橋市 半田市
西尾市 武豊町 豊田市

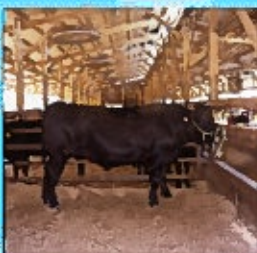
愛知県の年間生乳生産量は約18万トンで、生産地である遠美半島と知多半島を中心に、衛生管理の行き届いた牛舎で毎日搾乳が行われています。最近では省力化・IT化が進み、「搾乳ロボット」や「哺乳ロボット」などの先進的な技術の導入も進んでいます。



肉用牛

- ①産出額 11.6億円
- ②産出額の全国順位 (シェア)
18位 (1.7%)
- ③飼養頭数 42,200頭
- ④主な生産地
田原市 豊橋市 半田市
新城市 豊田市 東浦町

愛知県には、それぞれの地域にブランド牛があります。中でも「みかわ牛」は、愛知県全域で生産され、J.Aあいち経済連の肉牛マニュアルを基に飼育された黒毛和種で、品質規格に合格したものです。他にも、黒毛和種、交雑種、ホルスタイン種のそれぞれで様々なブランドがあります。



うずら卵

- ①産出額 3.4億円
- ②産出額の全国順位 (シェア)
1位 (70.6%)
- ③飼養羽数 2,321千羽
- ④主な生産地
豊橋市 豊川市 阿久比町
常滑市

うずらは、古くは喜ばない鳴き声を楽しむために愛玩用として飼われていました。採卵用として飼育され始めたのは明治中期といわれています。戦中、餌不足からほとんどいなくなりましたが、その後、東京で飼われていたうずらが豊橋市で交配され、全国各地に広まりました。現在では、愛知県が全国一の生産地となっています。



名古屋コーチン

- ①産出額 1.5億円
- ②産出額の全国順位
1位
- ③飼養羽数 約240千羽
- ④主な生産地
田原市 豊橋市 豊田市
東岸町 西尾市 常滑市
小牧市

名古屋コーチンは、明治初期に元尾張藩士海部兄弟が、在平の地鶏と中国から輸入された「バフコーチン」を交配し、卵肉兼用種としてつくったものです。昭和30年代後半に飼育数が激減しましたが、おいしい「かしわ肉」を求める消費者ニーズの高まりとともに、飼育数は増加しています。名古屋コーチンは、地鶏の中で唯一純粋種のまま商品化されており、知名度、品質ともに「地鶏の王様」と評されています。



8 農業・農村の多面的機能

日本の農業・農村は、「食」を支えているだけでなく、国土の保全、水源の涵養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承など様々な働きを持っています。

このような様々な働きを「農業・農村の多面的機能」といいます。この「農業・農村の多面的機能」は、私たちすべての大切な財産であり、これを維持・発揮させるためにも、農業を継続することが大変重要です。

愛知県における農業の多面的機能の評価額(平成12年)

項目	評価額(億円/年)
保健休養・安らぎの場の提供	1,373
洪水の防止	754
水資源のかん養	109
土壌浸食の防止	59
有機物の還元	7
気候の緩和	4
合計	2,306

愛知県の農業の多面的機能の評価額を試算すると、年間2,306億円となります。

※日本学術会議の審議を基に試算。項目については、一部わかりやすい表記としました。
※多面的機能にはこのほかに、伝統文化の継承など貨幣換算できない機能があります。

● 水源をかん養し、土砂の流出を防ぎます

水田は「自然のダム」ともいわれています。雨水を徐々に下流に流すことによって、地下水をかん養し、洪水を防いだり、土砂の流出を防止したりしています。また、水田や畑には、有機物を植物が吸収できるように分解する機能や、気候を緩和する機能などもあります。



● 多様な生物が生息・生育する場を提供しています

農地や農業用のため池・水路は、多様な動植物が生息・生育する豊かな生態系を幅広く自然空間を形成・維持しています。自然と調和した農業を継続することは、地域固有の歴史がはぐくんできた「生物の多様性」の保全に役立ちます。



● 伝統文化を継承しています

豊作を祈り、祝うお祭りなどの伝統行事や伝統芸能は、農業や農村の生活から生まれました。また、そうしたときに食べていたごちそうは、郷土料理として今に受け継がれています。農業・農村は、地域の気候や風土に根ざしたこれらの地域文化の伝承に大きな関わりを持っています。



● うるおいと安らぎ、学習の場を提供します

農業は、自然とのふれあいの場や安らぎの場を提供します。心なごむ農村の景観は、農業を営むことで保たれています。また、農作業体験など、こどもたちの自然やいのちにふれる学習の場として、活用されています。



「生産農業所得統計」及び「畜産統計」(農林水産省)などより

(産出額は平成27年、飼養頭数は平成28年2月1日現在、名古屋コーチン及び主な生産地は「農文の動き2017」などより。)

9 愛知の農業用水

愛知県は、木曾川・矢作川・豊川の三大河川にはぐくまれた肥沃な平野が拓け、これら河川の豊富な水を利用して古くから大規模な農業用水が開発されてきました。また、戦後には、愛知用水・豊川用水などに代表される近代的な大規模用水の整備が行われ、全国有数の愛知県農業を支えてきました。

現在では、これら農業用水の恵みを良好な形で未来に引き継いでいくため、長期的視野に立ち、農業水利施設の計画的整備を進めています。

【木曾川水系】

○宮田用水

- ・主な受益地域 尾張西部
- ・受益面積 6,550ha
- ・取水開始 1608年
- ・水源 木曾川自流

○木津用水

- ・主な受益地域 尾張北部
- ・受益面積 1,694ha
- ・取水開始 1648年
- ・水源 木曾川自流



宮田用水の受益地



犬山頭首工

【木曾川水系】

○木曾川用水

- ・主な受益地域 海部
- ・受益面積 6,273ha
- ・取水開始 1646年 (佐屋川開削)
- ・水源 木曾川自流



木曾川大堰

【木曾川水系】

○愛知用水

- ・主な受益地域 尾張東部、知多
- ・受益面積 14,596ha
- ・取水開始 1961年
- ・水源 牧尾ダム



愛知用水幹線水路



愛知用水の受益地

【矢作川水系】

○矢作川総合用水 (北部)

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 682ha
- ・取水開始 1979年
- ・水源 矢作ダム

○枝下用水

- ・主な受益地域 豊田加茂
- ・受益面積 2,229ha
- ・取水開始 1884年
- ・水源 矢作ダム※



明治用水頭首工

【矢作川水系】

○明治用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 4,759ha
- ・取水開始 1880年
- ・水源 矢作ダム※

○矢作川用水

- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 6,019ha
- ・取水開始 1963年
- ・水源 羽布ダム

○矢作川総合用水 (南部)

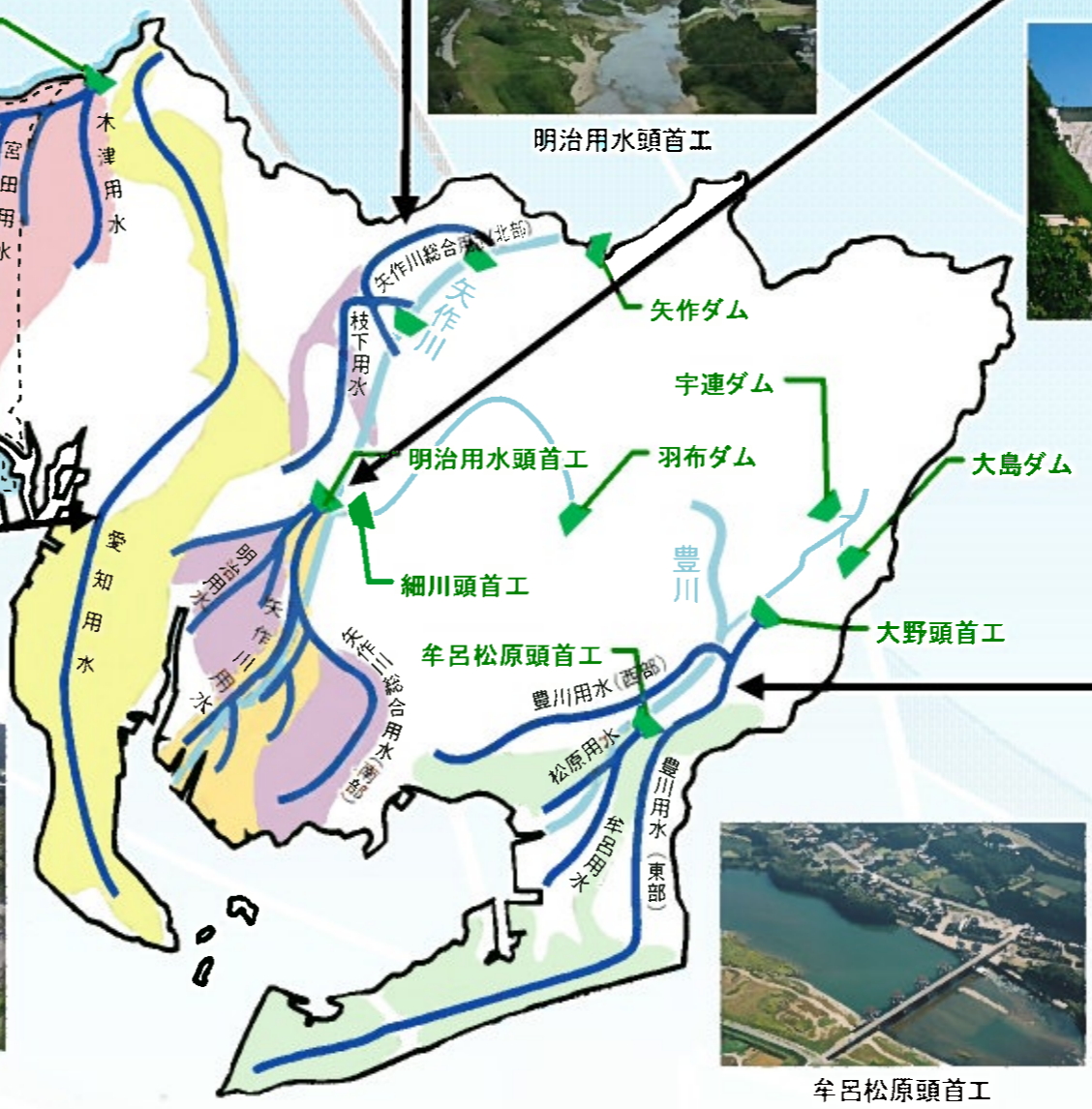
- ・主な受益地域 西三河
- ・受益面積 1,054ha
- ・取水開始 1985年
- ・水源 矢作ダム



羽布ダム



矢作川用水の受益地



大島ダム



豊川用水の受益地

【豊川水系】

○豊川用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 15,350ha
- ・取水開始 1968年
- ・水源 宇連ダム・大島ダム

○松原用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 641ha
- ・取水開始 1567年
- ・水源 宇連ダム・大島ダム※

○牟呂用水

- ・主な受益地域 東三河
- ・受益面積 970ha
- ・取水開始 1888年
- ・水源 宇連ダム・大島ダム※



牟呂松原頭首工

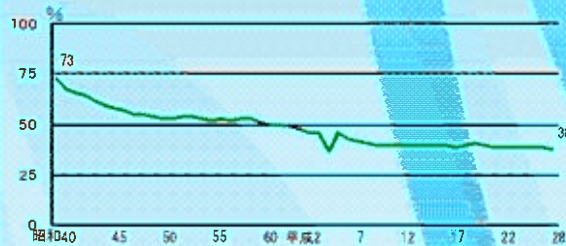
※ダムができる以前から河川自流を取水

10 食料自給率

食料自給率とは、国内の食料消費について国内産でどの程度まかなえるかを示す指標です。日本の食料自給率(カロリーベース)は38%で、約6割の食料を輸入に依存しています。世界的には、新興国の人口増加や食生活の改善等により、世界の食料供給がひっ迫基調で推移すると予測されています。また、異常気象による主要生産国における減産、農産物価格の急激な高騰、輸出規制による貿易量の減少などの事態も想定されることから、食料自給率を向上させるための取組が必要となっています。

● 日本の食料自給率

日本の食料自給率の推移



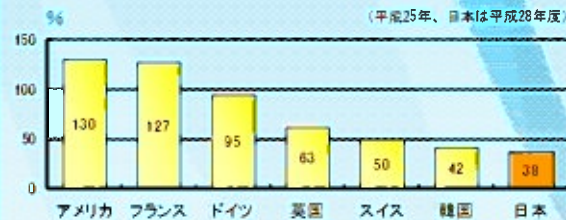
日本の食料自給率(カロリーベース)は、昭和40年度の73%から長期に低下傾向にありますが、平成12年度以降は、40%前後の水準で推移しており、平成28年度は、前年度から1ポイント減少し、38%となりました。

この数値を他の先進国と比較すると、日本は最低水準となっています。

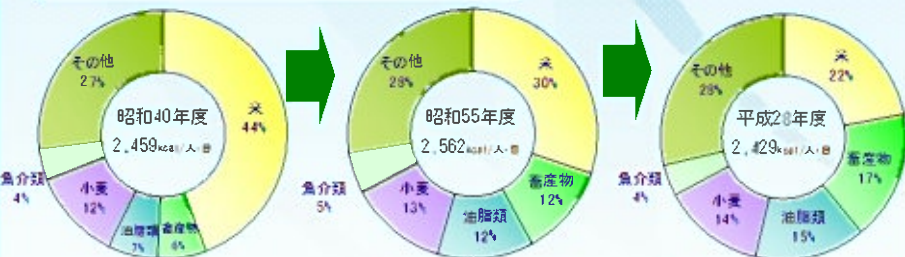
この主な要因は、米の消費量の減少に加え、輸入飼料穀物や輸入油糧作物に依存する傾向が高い畜産物や油脂の消費量の増加にあります。

この結果、米を中心として魚介類、畜産物、野菜、果実等様々な食品を組み合わせる日本型食生活が失われ、栄養バランスの崩れがみられます。

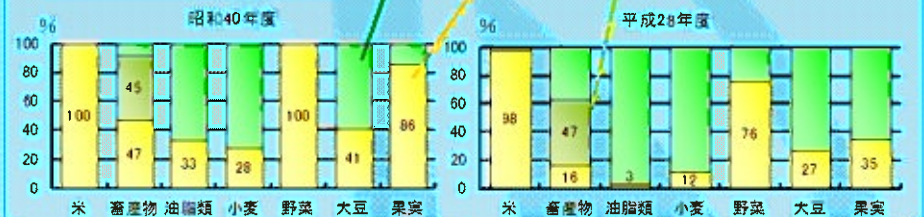
各国の食料自給率



食生活の変化(供給カロリーの割合の推移)



日本の品目別食料自給率



食糧自給率はカロリーベース。「平成28年度食料自給率について」(農林水産省)より

● 愛知県の食料自給率

都道府県別の食料自給率(平成27年度カロリーベース)では、愛知県は全国第43位の12%となっています。愛知県は農業産出額全国第8位の農業県ですが、人口が約748万人(平成27年)と多く、耕地1ha当たりの人口が全国第4位の97人(全国値の約3倍)となっていること、また、カロリーが低い野菜や自給率計算に反映されない花きなどの園芸作物の生産が盛んであることから、カロリーベースの食料自給率は低くなっています。

都道府県別食料自給率

順位	都道府県	自給率 (%)
1	北海道	221
2	秋田	196
3	山形	142
4	青森	124
5	岩手	110
41	奈良	15
42	京都	13
43	愛知	12
44	埼玉	10
45	神奈川	2
	大阪	2
47	東京	1

耕地1ha当たり人口

順位	都道府県	耕地当たり人口 (人/ha)
1	東京都	1,896
2	大阪府	670
3	神奈川県	466
4	愛知県	97
5	埼玉県	95
6	京都府	84
7	兵庫県	74
43	山形県	9
	青森県	9
45	岩手県	8
46	秋田県	7
47	北海道	5

「食料自給率」「農林水産省」などより

★ いいともあいち運動

「いいともあいち運動」は、愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えていこうという「運動」です。

また、県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと食べていただきたい(利用していただきたい)という、「愛知県産地産地消の取組」でもあります。

平成28年度に、一般公募により、シンボルマークの愛称を「あいまる」に決定しました。



- 1 県内の消費者と生産者が今まで以上に良い関係になる
- 2 Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ) もっと愛知県産品を食べよう (もっと愛)



11 参考資料

愛知県農業の主要指標(平成27年)

区分	単位	愛知県			全国		資料	備考
		22年 (2010)	27年 (2015)	27年/22年	27年 (2015)	27年/22年		
農家戸数	戸	84,028	79,833	97.9	2,155,082	85.3	※出典資料の作成年次の関係で、データの詳細は以下のとおり。	農家戸数 移出戸数
販売農家	戸	43,589	35,068	80.4	1,329,591	81.5	27年度 ⇒2015農林業センサス 27年2月	販売農家 販売農家戸数
専業農家	戸	10,024	11,105	110.8	442,805	98.1	22年度 ⇒2010農林業センサス 22年2月	専業農家 販売農家戸数
専業農家率	%	23.0	31.7	-	33.3	-		
主業農家	戸	10,128	8,754	86.4	293,928	81.7		主業農家 販売農家戸数
主業農家率	%	20.2	25.0	-	22.1	-		
農業就業人口	人	77,359	63,736	82.4	2,096,662	80.5		
女性の割合	%	51.5	51.4	-	48.1	-		
うち65歳以上	人	45,643	39,290	86.1	1,330,675	82.9		
65歳以上の割合	%	59.0	61.6	-	63.5	-		
基幹的農業従事者	人	66,861	55,332	82.8	1,753,764	85.5		
耕地面積	ha	79,100	76,900	97.2	4,496,000	97.9	耕地面積調査 27年7月	耕地面積 前年度 (総面積は 26年10月)
耕地面積率	%	15.3	14.9	-	12.1	-		
1戸当たり 平均耕地面積	ha	0.94	1.04	110.6	2.09	114.8		
水田面積	ha	44,600	43,600	97.8	2,446,000	98.0		水田面積 前年度
畑面積	ha	34,500	33,300	96.5	2,050,000	97.8		
水田率	%	56.4	56.7	-	54.4	-		
農業振興地域面積	ha	177,467	83,925	103.6	-	-	農業振興地域資料 27年	
農振地域内 農用地区域面積	ha	70,146	68,357	97.4	4,720,000	-		
農業経営体(個別経営) ・経営体当たり所得	千円	6,444	6,001	-	4,960	-	農業経営体別経営体 経営体別経営体 27年	農業関係者のみの 収支を対象
農業経営体(個別経営) ・経営体当たり農業所得	千円	1,384	1,502	-	1,527	-	経営耕地面積30ha以上又 は農産物販売金額40万円以 上の個別経営体の経営体 27年	
農業経営体(個別経営) ・経営体当たり農所得	千円	3,037	2,465	-	1,432	-	農業所得合計 27年	
農産物出荷	億円	2,962	3,063	103.4	87,979	108.3		
構成比 米	%	8.4	8.3	-	17.0	-		野菜、果実、花卉
構成比 畜産	%	61.6	58.0	-	40.1	-		
構成比 畜産	%	26.3	30.1	-	35.4	-		
農作物作付総面積	ha	72,600	70,300	96.8	4,127,000	97.5	作付面積調査 27年	
稲作付面積	ha	31,000	28,100	90.6	1,506,000	92.5		畜・牧場をばい りを含む
野菜作付面積	ha	18,100	17,200	95.0	526,300	96.1		
果樹栽培面積	ha	5,230	4,960	94.8	230,200	93.2		花卉・花菜・雑草 作付面積 前年度
花き等栽培面積	ha	4,720	4,610	97.7	82,200	94.5		
耕地利用率	%	91.8	91.4	-	91.8	-		
施設園芸栽培面積	ha	4,592 (21年)	3,849 (26年)	83.8	56,226 (24年)	86.7 (24年)	農業振興地域資料	ガラス室・ハウス 類等
乳用牛飼養頭数	頭	31,100	26,200	84.2	1,345,000	91.7	畜産統計調査 26年2月	
肉用牛飼養頭数	頭	53,200	42,200	79.3	2,479,000	89.7		
豚 飼養頭数	頭	364,800	333,300	91.4	9,313,000	95.3		
採卵鶏飼養羽数	千羽	7,237	6,870	94.9	134,569	98.0		産卵用採卵羽

※数値の出典及び単位は資料表に記載した。

主要農産物の生産状況(平成27年)

品目	作付面積・販売額羽数		生産量・出荷量		品目	作付面積・販売額羽数		生産量・出荷量					
	ha	千羽	千t	千t		ha	千羽	千t	千t				
米	28,100	1.9	21	141,300	1.8	20	なし	37	2.4	31	6,420	2.6	13
大豆	4,470	3.1	12	5,540	2.3	12	ぎんなん(※)	63	8.2	2	195	20.2	2
小麦	5,580	2.6	6	21,200	2.1	5	茶	555	1.3	14	887	1.1	10
キャベツ	5,540	16.0	1	261,700	17.8	1	きく	1,339	26.8	1	480,800千本	30.4	1
トマト	511	4.2	5	40,500	5.6	5	洋らん	48	24.1	1	3,760千本	23.5	1
しそ(※)	139	25.2	1	3,573	36.2	1	観葉植物	100	31.1	1	22,000千本	52.0	1
いちご	273	5.0	6	9,500	6.0	6	ばら	50	10.8	1	49,100千本	18.2	1
きゅうり	161	1.5	25	13,800	2.5	13	花き畜類	131	8.8	2	60,000千本	9.0	1
ブロッコリー	970	6.7	4	15,200	10.1	3	カーネーション	50	15.8	2	47,000千本	17.3	2
なす	268	2.8	13	13,100	4.2	7	シクラメン	18	9.7	2	1,580千本	9.5	2
ふき	74	12.5	2	4,520	40.2	1	豚	333,300	3.6	10	-	-	-
とうがん(※)	26	9.7	3	2,120	8.7	2	鶏卵	6,870千羽	5.1	5	103,888	4.1	7
みかん	1,290	3.1	9	26,300	3.4	8	乳用牛	26,200	1.9	7	183,401	2.5	7
ぶどう	467	2.7	7	4,450	2.5	8	肉用牛	42,200	1.7	17	-	-	-
かき	1,190	5.7	5	15,800	6.5	4	うずら卵	2,321千羽	-	3	-	-	-
いちじく(※)	130	12.6	1	2,479	17.8	1	名古屋コーテン	約240千羽	-	-	約660千羽	-	-

※「しそ」、「とうがん」、「いちじく」、「ぎんなん」については千羽換算。

用語の解説

- ・農産物出荷
年内に生産された各農産物の生産量(自家消費を含む)から、種子・飼料などの中間生産物を控除した各農産物数量に、農家の庭先価格を乗じ、都道府県を単位として推計したものを。
- ・農家
経営耕地面積が10a以上の農業を営む世帯又は調査期日前1年間における農産物販売金額が15万円以上あった世帯。
- ・専業農家
世帯員のうちに農業従事者が1人もいない農家。兼業従事者とは、農業以外の仕事の従事日数が30日以上など一定の基準以上、農業以外の仕事に従事したものであること。
- ・兼業農家
世帯員のうちに兼業従事者が1人以上いる農家。
- ・第1種兼業農家
農業所得を主とする兼業農家。
- ・第2種兼業農家
農業所得を従とする兼業農家。
- ・販売農家
経営耕地面積が30a以上又は調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円以上の農家。
- ・自給的農家
経営耕地面積が30a未満かつ調査期日前1年間における農産物販売金額が50万円未満の農家。
- ・主業農家
農業所得が主(農業所得の50%以上が農業所得)で、調査期日前1年間に自営農業に60日以上従事している65歳未満の世帯員がいる農家。
- ・農業就業人口
農業従事者のうち、調査期日前1年間に自営農業のみに従事した者、農業とそれ以外の仕事の両方に従事した者のうち自営農業が主の者の人口。
- ・基幹的農業従事者
農業就業人口のうち、ふだん仕事として主に自営農業に従事している者。
- ・認定農業者
農業経営者継承化促進法に基づき、プロの農業者を目指して、5年後の農業経営の目標を樹立した農業経営改善計画が市町村によって認定された農業者。地域の中心的担い手として期待されています。
- ・米の生産調整
米の生産過剰が恒常的となった昭和44年から国の政策として始まり、昭和46年から本格的に実施されています。生産調整の規模は、米の消費量の減少に伴って年々拡大し、愛知県では水田の約4割で生産調整が行われています。
- ・搾乳ロボット
自動制御農場により、個々の牛が識別され、搾乳作業を自動的に行うロボットのことで、搾乳に係わる作業が大幅に省力化されるため、普及が期待されています。
- ・哺乳ロボット
個体識別票を付けた子牛がドリンクステーションに入ると、これを認識して、その子牛に応じた量のミルクを作り、給与する自動哺乳装置のことで、
- ・都道府県別食料自給率
農林水産省が算出した各都道府県の人口と食料生産のバランスを示す指標。住民1人当たりが消費する食料を一定とし、生産された農産物等がすべてその都道府県内に消費されると仮定して